

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（案）

平成28年5月18日
教育課程部会 高等学校の
地歴・公民科科目の在り方に
関する特別チーム 資料16

※ 社会的な見方や考え方は、小・中・高等学校の各「見方や考え方」を総称する呼称であり、社会の在り方や、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察する際の「追究の視点や方法」である

	考えられる追究の視点例	社会、地理歴史、公民における思考力、判断力	追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例	考察、構想した結果、獲得する知識の例
小学校社会	<ul style="list-style-type: none"> ○位置や空間的な広がり 地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件、土地利用など ○時期や時間の経過の視点 時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性など ○事象や人々の相互関係の視点 工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力、連携、対策・事業、役割、影響、多様性と共生（共に生きる）など 	<p>◎社会的な見方や考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 位置や空間的な広がり 時期や時間の経過 事象や人々の相互関係 比較・分類したり総合したりして 国民（人々の）生活と関連付けて <p>に注目して社会的な事象を見出し</p> <p>追究の方法</p> <p>考察 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察する力</p> <p>構想 社会に見られる課題について、社会への関わり方を選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように広がっているのだろうか ・なぜこの場所に集まっているのだろうか ・地域ごとの気候はどのような自然条件によって異なるのだろうか ・いつどんな理由で始まったのだろうか ・どのように変わってきたのだろうか ・なぜ変わらずに続いているのだろうか ・どのような工夫や努力があるのだろうか ・どのようなつながりがあるのだろうか ・なぜ〇〇と〇〇の協力が必要なのだろうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの組立工場を中心に部品工場が集まり、工業が盛んな地域を形成している ・駅の周囲は交通の結節点なので人が多いため商業施設が集まっている ・国土の地理的位置や地形、台風などの自然条件によって気候は異なる ・祭りは地域の豊作や人々のまとまりへの願いから始まった ・農作業は機械化により生産効率を向上させてきた ・伝統芸能は技や道具が継承されるとともに、多くの人々に受け入れられて今に至っている ・地域の安全は、関係機関の未然防止と緊急対応によって守られている ・食料生産は私たちの食生活を支える役割を果たしている ・政治には国民生活の安定と向上を図る働きがある
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○位置や分布に関する視点 絶対的、相対的 規則性・傾向性、地域差 など ○場所に関する視点 自然的、社会的 など ○人間と自然の相互依存関係に関する視点 環境依存性、伝統的、改変、保全 など ○空間的相互依存作用に関する視点 関係性、相互性 など ○地域に関する視点 一般的共通性、地方的特殊性 など 	<p>◎社会的な見方や考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 位置や空間的な広がりとの関わりで社会的な事象を見出し 環境条件や他地域との結び付きなどを地域等の枠組みの中で人間の営みと関連付けて <p>追究の方法</p> <p>考察 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それは、どこに位置するだろうか ・それは、どのように分布しているだろうか ・そこは、どのような場所だろうか ・そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているだろうか ・そこでの生活は、まわりの自然環境にどのような影響を与えているだろうか ・そこは、それ以外の場所とどのような関係を持っているだろうか ・その地域は、どのような特徴があるだろうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること (具体例：明石市は大阪市の西にあり、その市立天文科学館は日本標準時子午線上の北緯34度38分、東経135度0分にある) ・特定の事象は、地球の表面において特定の範囲に広がること (具体例：アマゾン川流域の一年中雨が降る地域には、常緑の密林帯が広がっている) ・地球上の各地は、固有の性格があること (具体例：広島市の沿岸部は、低平な三角州となっている) ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること (具体例：平野の乏しい日本では、その傾斜地を段々畑や棚田にするなどして利用してきた) ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと (具体例：多くの人口を抱えた大消費地東京の周辺では、新鮮な農産物を生産し、都市の住民に届ける近郊農業がさかんである) ・空間的な広がりには、まとまりのある固有の特徴を持つこと (具体例：中国地方の山間部では、人口減少や高齢化の進む過疎化に悩む地域が広がっている)
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○年代の基本に関する視点 時期、年代、時代区分 など ○諸事象の推移や変化に関する視点 変化、発展、時代の転換 など ○諸事象の特色に関する視点 相違、共通性、時代の特色 など ○事象相互の関連に関する視点 背景、原因、結果、影響 など 	<p>◎社会的な見方や考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 時期、推移や変化などに注目して社会的な事象を見出し 比較して相違や共通性などを明確にして 諸事象とその背景などの関連性に留意して <p>追究の方法</p> <p>考察 時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ(どこで、誰によって)おこったか ・前の時代とどのように変わったか ・どのような時代だったか ・なぜおこった(何のために行われた)か ・どのような影響を及ぼしたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・9世紀の初め、唐に渡った最澄と空海は、帰国後に仏教の新しい宗派を伝えた ・15世紀後期の動乱を経て室町幕府の統一的支配は弱まり、各地の大名による領国の支配や、民衆による自治的な結合が進んでいった ・近世は、江戸幕府の安定した全国支配体制が形成され、産業・通商や町文化が隆盛をみた時代であった ・自由民権運動は、士族や商工業者、有力農民など幅広い人々が参加し、一部の勢力が多数を占めた政府に対し、国民の参政権確立を求めた運動であった ・アジアの富への関心やイスラム諸国との接触(対立と文化交流)を背景としたヨーロッパ人の海外進出は、勢力拡大を図る戦国大名との関係のもと、戦国時代の推移に影響を与えた
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○現代社会を捉える視点 対立と合意、効率と公正、個人の尊重、自由、平等、選択、配分、法的安定性、多様性 など ○社会に見られる課題の解決を構想する視点 対立と合意、効率と公正、民主主義、自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、利便性と安全性、国際協調、持続可能性 など 	<p>◎現代社会の見方や考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代社会を捉える概念的枠組みに着目して課題を見出し それらの課題の解決に向けて多様な概念を関連付けて <p>追究の方法</p> <p>考察 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 複数の立場や意見を踏まえて構想する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ市場経済という仕組みがあるのか、どのような機能があるのか ・民主的な社会生活を営むために、なぜ法に基づく政治が大切なのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済において個人や人々は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するかを選択すること、また、価格には、何をどれだけ生産・消費するかに関わって、人的・物的資源を効率よく配分する働きがあることなどが、市場経済の基本的な考え方である ・民主的な社会における法は、国民生活の安定と福祉の向上を目指し、国民の意思のあらわれとして国民の代表によって構成される議会によって制定されるものであり、国や地方公共団体は、国民の自由と権利を侵さないようにそうした法の拘束を受けながら政治を行っている

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（案）

	考えられる追究の視点例	社会、地理歴史、公民における思考力、判断力	追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例	考察、構想した結果、獲得する知識の例
地理総合(仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ○位置や分布に関わる視点 時間距離、時差 等質(均質, 同質)、類似 など ○場所に関わる視点 共通性、多様性 など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 限界性、防災・減災 など ○空間的相互依存作用に関わる視点 移動性、圏構造(都市圏…), グローバル化 など ○地域に関わる視点 規模、格差、変容、持続可能性 など 	<p>◎社会的事象等の地理的な見方や考え方</p> <p>・位置や空間的な広がりととの関わりに着目して社会的事象を見出し ・環境条件や他地域との結び付きなどを地域等の枠組みの中で人間の営みと関連付けて</p> <p>↓ 追究の方法</p> <p>考察 地理に関わる諸事象を地域という枠組みの中で多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 持続可能な社会の構築のためにそこで生起する課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて構想する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それは、なぜそこに位置するだろう ・それは、なぜそのように分布しているだろう ・そこは、なぜそのような場所になったのだろう ・そこでの生活は、まわりの自然環境からなぜそのような影響を受けているのだろう ・そこでの生活は、まわりの自然環境になぜそのような影響を与えているのだろう ・そこは、それ以外の場所となぜそのような関係を持っているだろう ・その地域はなぜそのような特徴があるのだろう <p>・なぜ、それは(そこにある、そのように広がる、そのような場所となる、そのような自然の恩恵を受ける、そのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、そのような地域となる)べきなのだろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の地点は、理由があり、そこに所在していること (具体例: 択捉島が日本の国土の最北端であるのは、それが他の北方領土の島々とともに、日本の固有の領土だからである) ・地球上の各地は、理由があり、多様な特徴を持つこと (具体例: 東南アジアの高湿多湿な地域では通気性を高めるため、シベリアの凍土地帯では住宅内の熱を逃がすため、いずれも高床式住居が建設されている) ・人々の生活は、理由があり、自然的影響を受けるとともに、それを変化させること (具体例: サハラ砂漠の南に広がるサヘル地域では、過度な放牧や農耕、薪の採取などにより砂漠化が進んだ) ・場所は、理由があり、相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと (具体例: 飢饉に苦しむ発展途上国への食料援助には、人道的な側面とともに政治的混乱や周辺諸国への難民発生を防ぐといった効果も考えられる) ・空間的な広がりは、理由があり、固有の性格を持ち、変容すること (具体例: 発展途上国には、政治や経済、文化、情報などの機能が首都に一種集中し、地域格差が拡大している国がある) <p>・地域には、それが持つ地理的理由に基づいた、よりよい姿が求められること (具体例: シンガポールでは、地理的に交通の要衝にあることやその多民族性を生かして、国際的な物流の拠点や金融ステーションとしての国づくりを目指している)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○位置や分布に関わる視点 経済距離、中心性 単一指標、複数指標、総合(指標) など ○場所に関わる視点 立地、景観、民族性 など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境可能論、環境決定論 など ○空間的相互依存作用に関わる視点 中枢管理機能、階層性 など ○地域に関わる視点 構造、分化 など 	<p>◎社会的事象等の地理的な見方や考え方</p> <p>・位置や空間的な広がりととの関わりに着目して社会的事象を見出し ・環境条件や他地域との結び付きなどを地域等の枠組みの中で人間の営みと関連付けて</p> <p>↓ 追究の方法</p> <p>考察 地理に関わる諸事象を系統地理的あるいは地誌的な方法により多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 持続可能な社会の構築のためにそこで生起する課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて構想する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それが、そこに位置する意味(意義、役割、影響)は何だろう ・それが、そのように分布する意味は何だろう ・そこが、そのような場所である意味は何だろう ・そこでの生活が、まわりの自然環境からそのような影響を受けているのはどういう意味があるのだろう ・そこでの生活が、まわりの自然環境にそのような影響を与えているのはどういう意味があるのだろう ・そこが、それ以外の場所とどのような関係を持っている意味は何だろう ・その地域がそのような特徴があるのはどういう意味があるのだろう <p>・それが、(そこにある、そのように広がる、そのような場所となる、そのような自然の恩恵を受ける、そのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、そのような地域となる)ことにどういう意味(影響、役割、意義)を持たせるべきだろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の地点が、そこに所在するのは意味があること (具体例: 沖ノ島や南鳥島等の離島は、領土としてはもちろん、豊かな海洋資源を抱える排他的経済水域の起点としても重要であり、その存在意義が目まぐるしく注目されている) ・地球上の各地が多様な特徴を持つのは意味があること (具体例: 大都市の都心には、行政機関や大企業の本社等が集まることで、政治や経済の中核管理機能を担っている) ・人々の生活が自然の影響を受けるとともに、それを変化させるのは意味があること (具体例: ヨーロッパの過酷な自然環境下で生まれた休耕地や放牧地を要する農業形態は、広い用地を必要としたことから、農地転用のための森林伐採を促し、平地林の減少を加速させたこととなった) ・場所が相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うのは意味があること (具体例: 都市周辺部の無秩序な開発は、そこでの生活環境の悪化を引き起こすとともに、都市中心部と他地域を結び付ける交通アクセス等にも悪影響を及ぼし、都市全体としての機能を低下させる) ・空間的な広がりが、固有の性格を持ち、変容するのは意味があること (具体例: スイスで複数の言語が公用語となっているのは、複雑な民間間の軋轢を軽減し、多文化主義を推進しようとするねらいがある) <p>・地域には、それが持たず意味(影響、役割、意義)を踏まえた、よりよい姿が求められること (具体例: 戦争により荒廃した国土を復興し、世界最先端の工業化社会、情報化社会を作り上げてきた私たちは、その経験を多くの国々々に伝え、世界の繁栄に貢献していかなければならない)</p>
高等学校地理歴史	<ul style="list-style-type: none"> ○年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代 など ○諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など ○諸事象の特色に関わる視点 相連、共通性 など ○事象相互の関連に関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互作用 など 	<p>◎社会的事象等の歴史的な見方や考え方</p> <p>・時期、推移や変化などに着目して社会的事象を見出し ・比較して共通性や相違点を明確にして ・因果など事象相互の関連性に留意して</p> <p>↓ 追究の方法</p> <p>考察 現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ(どこで、誰によって)おこったか ・なぜおこった(何のために)行われたか ・どのような影響を及ぼしたか ・何が、なぜ、どのように変化したか ・何が転換したか ・共通している(異なっている)ことは何か ・どのような相互関係があるか ・何が課題として残されたか <p>・なぜそのような判断をしたと考えられるか</p> <p>・どのような選択が可能だったか</p> <p>・歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために何を展望するか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一国どうしの個別の条約の締結による国際秩序作りは第一次世界大戦を契機に大きく変化し、戦後は複数の国家が参加する条約の締結をもとに国際秩序の安定化が目指された ・20世紀前半の大衆の政治や経済・文化活動の参加は、マスメディアの発達などによりこれまでの制限や規制を越えて拡大した。人・資本・情報の移動が一層加速化した結果、情報化社会へとつながっていった ・18〜19世紀には、工業化や政治変動から新たな国家のしくみが生まれ、その過程で人権思想が生まれた。人権思想の広まりには地域ごとに違いがあり、現代の課題へとつながっている ・16世紀には、諸大陸を結びつける国際商業が活性化の中で、日本やアジアの諸帝国が繁栄し、富を求めて進出した西欧との交流が盛んに行われた ・市場経済の進展とともに貧富の格差をめぐる問題が顕著となり、富の再分配をめぐる動きが起る一方、国際社会では支配と従属の関係の深まりから新たな対立が生じ、現代社会における地域的な経済格差の問題との関連が指摘されている <p>・歴史上の選択・判断の積み重ねが時代を築き、今後の社会を創造する(具体例: 近代化をめぐる日本・アジア諸国の対応は異なり、その後の歴史の展開に大きな違いをもたらした)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代 など ○諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など ○諸事象の特色に関わる視点 相連、共通性、多様性、複合性、多元性 など ○事象相互の関連に関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互依存性 など 	<p>◎社会的事象等の歴史的な見方や考え方</p> <p>・時期、推移や変化などに着目して社会的事象を見出し ・共通性や相違点から特色を明確にし ・因果など事象相互の関連性に留意して</p> <p>↓ 追究の方法</p> <p>考察 諸地域世界の歴史の大きな枠組みと展開を、多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ(どこで、誰によって)おこったか ・なぜおこった(何のために)行われたか ・どのような影響を及ぼしたか ・何が、なぜ、どのように変化したか ・何が転換したのか ・共通している(異なっている)ことは何か ・どのような相互関係があるか ・何が課題として残されたか <p>・どんな意味や意義があるのか</p> <p>・なぜそのような判断をしたと考えられるか</p> <p>・どのような選択が可能だったか</p> <p>・歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために何を展望するか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・金と南宋が国境と互いの関係を定めたことで、約100年間の中国南北の平和が訪れた。この間、経済・産業・文化が発展し、人口も増大した ・宗教改革は、ローマ教皇と神聖ローマ皇帝の権威をゆるがし、主権国家が宗教を管理して権力を強化しようとする動きのはじまりとなった ・モンゴル帝国はモンゴル人第一主義を採用し統治したが、ムガル帝国と清帝国はともに異なる民族や異なる出自の者を共存させる政策を採用した。 ・日本で最初の国際定期遠洋航路が神戸とボンベイに結ばれたのは、20世紀末のグローバルな経済、金融、政治の状況が深く関係している ・従来は戦争のない状態を平和とし、戦争を防ぐための仕組みを作ることが課題であったが、今では、紛争のない社会の実現のためには、差別や貧困などの構造的な問題にも着目するようになった ・ポリシェビキ政権は民族自決権を認めたが、スターリンは、非ロシア地域でのロシア化を進めた。ソ連邦では、少数派民族の抑圧の問題は解消されなかった <p>・歴史上の課題について、時代背景を踏まえて多様な選択や判断を構想することは、現代を理解し今後の社会を展望する力となる(具体例: ミュンヘン会談やヴェトナム戦争の経験は、その後の外交の在り方に影響を与えた)</p>
世界史に関する探究科目(仮称)				

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（案）

	考えられる追究の視点例	社会、地理歴史、公民における思考力、判断力	追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例	考察、構想した結果、獲得する知識の例
高等学校地理歴史	日本史に関する探究科目（仮称） <ul style="list-style-type: none"> ○年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代区分 など ○諸事象の推移や変化に関わる視点 継続、発展、時代の転換 など ○諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性、時代性、多様性、地域性、 など ○事象相互の関連に関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互依存性 など 	◎社会的事象等の歴史的な見方や考え方 ↓ 追究の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・時期、推移や変化などに着目して社会的事象を見出し ・共通性や相違点から特色を明確にしたり ・事象相互の関連性に留意して 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ（どこで、誰によって）おこったか ・なぜおこった（何のために行われた）か ・どのような影響を及ぼしたか ・何が、なぜ、どのように変化したか ・何が転換したのか ・共通している（異なっている）ことは何か ・地域と日本、世界はどのように関係したか ・どのような関係があるか ・何が課題として残されたか ・どんな意味や意義があるのか 	考察、構想した結果、獲得する知識の例 <ul style="list-style-type: none"> ・18～19世紀前半の社会構造は、幕府による政策的な対応にもかかわらず、経済・産業の成長の中で生じた矛盾によって次第に変化を生じていった ・中世の社会では、武士勢力や宗教勢力の拡大や庶民の台頭などが起こり、権力の多様化が新しい文化や地域的な差異を生みだすなどの変化をもたらした ・日本の古代国家の形成過程における背景は、仏教文化の影響や国際関係の緊張への対処など、東アジア共通の要素が見受けられる ・19世紀、身近な地域の養蚕業の盛衰の背景には、近代化の過程の日本の貿易や国内の産業構造の変化が関係していた ・江戸時代の文化の特色には、江戸初期の経済発展による文芸の普及や生活文化の上昇などによって担い手の成長がもたらされたことが指摘できる ・戦後の日本経済の推移は、冷戦の国際状況と密接に関係して展開しており、現代も世界情勢との関わりを踏まえて理解することが必要である ・生類憐みの令は人命に関わるものなど一部が後世に引き継がれたことから、戦国から平和な時代への価値観の変化を促したとも評価できる ・歴史上の課題について、時代背景を踏まえて多様な選択や判断を構想することは、現代を理解し今後の社会を展望する力となる（具体例：社会の変化を背景に拡大した米騒動には、国民意識の変化や情報化の進展などを踏まえた多様な対応の可能性が存在したが、当時の政権の選択による対処と結果は、後の政府の在り方に大きな影響を与えることとなった）
高等学校公民	公共（仮称） <ul style="list-style-type: none"> ○人間と社会の在り方を捉える視点 幸福、正義、公正、個人の尊厳、自由、平等、寛容、委任、希少性、機会費用、利便性と安全性、多様性と共通性 など ○公共的な空間に見られる課題の解決を構想する視点 幸福、正義、公正、協働関係の共時性と通時性、比較衡量、相互承認、適正な手続き、民主主義、自由・権利と責任・義務、平等、財源の確保と配分、平和、持続可能性 など 	◎人間と社会の在り方についての見方や考え方 ↓ 追究の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・人間と社会の在り方を捉える概念的枠組みに着目して課題を見出し ・それらの課題の解決に向けて選択・判断の基準となる考え方などを関連付けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会を成立させる背景にあるものは何か ・社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる考え方は何か ・よりよい集団、社会の在り方とはどのようなものか ・公共的な場づくりや安全を目指した地域の活性化のために、私たちはどのように関わり、持続可能な社会づくりの主体となればよいか 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、様々な立場や文化等を背景にして社会が成立している ・「その行為の結果として、個人の幸福とともに、社会全体の幸福を重視する考え方」と「その行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」があり、両者ともに活用し、自分も他者ともに納得できる解を見出そうと考えていくことが重要である ・「自立した主体とは何か」を問い、自らを成長させるとともに、人間は社会的な存在であることを認識し、対話を通じてお互いを高め合うことの両者によってよりよい公共的な空間を作り出していくことが大切である ・選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用するとともに、個人を起点として、自立、協働の観点から多様性を尊重して持続可能な地域づくりに向けた役割を担う主体となることが大切である
高等学校公民	倫理（仮称） <ul style="list-style-type: none"> ○人間としての在り方生き方を捉える視点 善悪、生死、徳、愛、共感、幸福、義務、正義、個人の尊厳、公正、寛容、存在、真理、聖、美 など ○現代の倫理的諸課題の解決を構想する視点 尊重、畏敬、創造、保全、自由、権利、責任、自立、協働、勤労、多様性、相互承認、平和、国際協調、持続可能性 など 	◎人間としての在り方生き方についての見方や考え方 ↓ 追究の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・人間としての在り方生き方を捉える諸概念に着目して現代の倫理的課題を見出し ・それらの課題の解決に向けて選択・判断の基準となる考え方や哲学、宗教、芸術などに関わる理論を有機的に関連付けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの人生をどう生きればよいか、生きることの意味は何か、人間とは何か ・他者どう生き、社会でどう生きていけばよいか、良識ある公民としていかに在るべきか、いかに生きるべきか ・人間は何を知ることができるのか、なぜ世界が存在するのか、人間はどのような位置付けで存在するのか ・哲学や宗教や芸術が何を問い、どのような答えを見出してきたか ・自然とどのように関わり合って生きればよいか。自然科学で知ろうることと倫理学で求めることの違いはどこにあるか ・グローバル化が進む中で、異文化と共生し多様な文化が共存する国際社会を築くために考えるべきことはどのようなことか 	<ul style="list-style-type: none"> ・価値あるよいものを求め、正しい行いを選ぶ賢さとそれを実行する意志の強さを身に付けた徳の高い人間を目指し生きる ・自由権の保障とともに不利な立場にある人々への配慮も必要であるという考え方を手がかりとして公正・公平な社会について考え続ける ・存在の不思議への驚きから知識への深い懐疑が生じること、正解が定めがたく問うこと自体に意味がある問いがあり、これを問い考え続けることが大切であることに気付く ・倫理で考えるのは主に「べき」であるため、自然科学で考える「ある」とは異なるが、観察した事実を根拠として練り上げられた理論を現実の出来事さらに観察し修正しながら、判断と理論を調整していくことが大切である ・自民族中心主義やオリエンタリズムなどの思考による偏見を自覚し、異文化を尊重していくことが大切である
高等学校公民	政治・経済（仮称） <ul style="list-style-type: none"> ○社会の在り方を捉える視点 個人の尊厳、効率、公正、自由、平等、委任、希少性、機会費用、選択、配分、分業、交換、利便性と安全性、多様性と共通性 など ○社会に見られる課題の解決を構想する視点 対立、協調、効率、公正、比較衡量、具体的な妥当性と法的安定性、相互承認、適正な手続き、民主主義、自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、平和、持続可能性 など 	◎社会の在り方についての見方や考え方 ↓ 追究の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・社会の在り方を捉える概念的枠組みに着目して社会の課題を見出し ・それらの課題の解決に向けて選択・判断の基準となる考え方や政治、法、経済などに関わる理論を有機的に関連付けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治の意義と機能はどのようなものであるか ・経済活動の意義はどのようなものであるか ・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方とはどのようなものか ・地域社会の発展と住民生活の向上のために、国と地方公共団体の関係の在り方や私たちの関わり方について、どのような選択・判断、合意形成を行うか 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治とは広義には、個人あるいは集団の考え方や意見、利害の対立や衝突を調整したり解決したりすることにより、社会の秩序を維持し統合を図る機能を意味している ・経済活動は分業と交換に基づき人間生活の維持・向上のために行われるものであり、いずれの社会でも、「何をどれだけ」、「どのような方法で」、「誰のために」生産すべきか、生産された財やサービスをどのように社会の構成員に分配し、いかに消費するかという経済的選択の問題を解決しなければならないものである ・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方を考察、追究する際には、現代政治における個人、政党及び圧力団体の行動、住民運動など現実社会の事象を取り上げ、客観的な資料を基に様々な角度から主体的に考察することが必要である ・個人の尊厳、基本的人権の尊重を基盤に、理論と現実との相互関連に留意しながら持続可能な地域社会となる在り方を考察、追究することが大切である